

補助金等評価調書 平成28年度行政評価（シート1）

所管部課名	都市整備部 多摩都市モノレール推進担当		作成日	平成28年8月2日		No.	22
作成責任者(課長)氏名	安齋 高		作成者氏名	岡村 洪太		電話	279
補助金等名	モノレールを呼ぼう！市民の会交付金						
開始時期	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 21年 9月 <input type="checkbox"/> 不詳						
実施根拠	法令等の名称 平成27年度武蔵村山市モノレールを呼ぼう！市民の会交付金交付要綱						
補助区分	<input checked="" type="checkbox"/> 定額補助 <input type="checkbox"/> 定率補助 <input type="checkbox"/> その他 (説明)⇒ 年間150万円						
補助金等の概要	対象: (交付先)	モノレールを呼ぼう！市民の会					
	補助内容: (補助基準等)	モノレールを呼ぼう！市民の会が行うモノレール促進活動に必要な経費のうち、交付対象経費（謝礼金、打合せ経費、消耗品費、備品費、印刷経費、役務費、レンタル・リース経費、工事費、その他経費）に対し交付するものであり、上限は年間150万円である。					
	意図: (目的、趣旨)	市民等が主体となって行うモノレール促進活動の充実を図り、もって多摩都市モノレールの市内延伸の早期実現に資することを目的とする。					
	実施結果: (具体的成果) ※27年度実績	本交付金を通じて、モノレールを呼ぼう！市民の会により以下の取組が行われた。 ・武蔵村山の未来を語る100人会議の実施 ・村山デエダラまつりへの参加（モノレールを呼ぼう！市民の会PR活動、会員増強活動、山車の運行、ダンスイベントの実施）					
他市等の状況	近隣市町では、類似の補助を実施する自治体はない。なお、八王子市では、自治会、経済団体等を構成メンバーとする「多摩都市モノレール八王子ルート整備促進協議会」を設置し、要望活動、PR活動等を行っている。						
【評価指標】		指標名	単位	説明・計算式			
活動指標	①	モノレール延伸PRイベント開催数	回				
	②	モノレール延伸要望活動回数	回				
成果指標	①	市民の会会員数（個人会員、サポート会員）	人	個人会員、サポート会員			
	②	市民の会会員数（団体会員、賛助団体）	団体	団体会員、賛助団体			
費用・成果の推移		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	備考		
交付金額(千円)		1,168	1,348	1,500			
うち一般財源		1,168	1,348	1,500			
所要人員(人)		0.01	0.01	0.01			
総コスト(千円)		1,279	1,458	1,610			
活動指標	①	1回	2回	2回			
	②	2回	0回	1回			
成果指標	①	151人	929人	929人	※平成27年度からサポート会員を追加		
	②	4団体	12団体	12団体	※平成27年度から賛助団体を追加		
【交付団体等の決算・予算の状況等】		※特定団体に交付の場合のみ記載					
単位：千円		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	平成27年度の補助金の使途		
収入総額(千円)		1,482	1,848	2,097	交付金額(千円)	1,348	
収入内訳	市補助金	1,168	1,348	1,500	使途内訳	消耗品費	29
	会費	205	348	300		会議費	18
	繰越金	56	151	287		事業費	1,087
	事業収入	0	0	0		印刷費・広報費	169
	その他	53	1	10		役務費	45
支出総額(千円)		1,482	1,847	2,097			
支出内訳	食糧費,交際費	21	60	20	各種割合		
	人件費	0	0	0	団体収入に占める補助金の割合	73%	
	事業経費	1,312	1,501	1,850	団体収入に占める繰越金の割合	8%	
	その他	149	286	227	交付金額に対する繰越金の割合	11%	
過去の評価経過	協議会・委員会の意見要旨	<input type="checkbox"/> 補助金等検討協議会(平成20年度) <input checked="" type="checkbox"/> 行政評価委員会(平成24年度) 市民の悲願である多摩都市モノレールの市内延伸の早期実現を図る上で、市民と行政とが連携して促進活動を実施することが重要である。このため、市民有志が自主的なPR活動、要望活動等に取り組む「モノレールを呼ぼう！市民の会」の運営基盤を支えるものとして、本交付金には高い必然性及び有効性が認められる。 よって、今後も引き続き当該交付金を交付し、市民による積極的な支援をしていくことが適当である。					
	見直し等の状況						

評価項目	評価	確認項目（※○・×のどちらにも該当しない場合は、「－」を選択。）
一次評価	公益性	○ ① 市民からのニーズが大きい。
		○ ② 補助事業に類したサービスを提供可能な機関や団体が他にない。
		○ ③ 被交付者だけではなく、一般市民にも間接的な受益がある。
	効率性	× ① 補助金の内容や補助額等について、過去5年以内に見直しを行っている。
		× ② 補助額、実施手法等について、過去に他市等との比較を行った。
		× ③ 補助期間(終期)を設定している、又は設定の予定がある。
		(○の場合)⇒終期 平成 年 月
		○ ④ 必要最小限の補助であり、縮減や所得制限導入の余地はない。
		× ⑤ 補助額、補助率等の算定根拠を説明できる。
	(○の場合)⇒算定根拠 (説明)	
	有効性	○ ① 補助基準が明確である。
		× ② 補助金の成果について、具体的な数値目標等を設定している。
(○の場合)⇒目標内容 (説明)		
適格性	○ ③ 補助金の交付により、期待された効果が得られた。	
	○ ① 繰越額が補助金額を上回っていない。	
	○ ② 補助金に依存することなく、被交付者が自主財源の確保に努めている。	
	(○の場合)⇒取組内容 (説明) 会員等会費を集め自主財源の確保に努めている。	
	○ ③ 決算書だけではなく、帳簿や領収書等で使途の確認ができる。	
その他	－ ④ 市税の滞納がないなど、被交付者が市民としての責務を果たしている。	
	○ ⑤ 交際費、慶弔費、飲食費、懇親会費の経費に補助金を充てていない。	
	○ ① 補助の目的、内容及び実施時期に緊急性又は優先度の高さが認められる。	
	(○の場合)⇒その理由 (説明) モノレール延伸は、最重要施策に位置付けられており、市民と一体となって延伸の機運を高めていく必要がある。	
	× ② 成果向上のため、被交付者自らが活動内容の検証、改善等を行っている。	
	(○の場合)⇒改善内容等 (説明)	
○ ③ 補助金に、市民との協働や市民の主体的な取組を促進する作用がある。		
○ ④ 迂回助成(被交付団体から他団体への、補助金を原資とした助成)は行われていない。		
【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) ※「×」とした項目に言及しながら、所管課としての意見を具体的に記載ください。 多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面延伸の実現に向けて、市民と行政が連携して各種促進活動を行うことが重要であり、今後もモノレールを呼ぼう！市民の会への交付金の交付を通じ、市民による各種促進活動を継続して支援していくことが必要である。		
二次評価	【総合的意見(今後の方向性)】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) 本交付金は、モノレールを呼ぼう！市民の会が行うPR活動や要望活動等に係る経費を補助するものであり、多摩都市モノレールの市内早期延伸に向けた重要な取組であることから、今後も継続することが適当である。 なお、国の交通政策審議会において、事業化に向けて関係者間で具体的な調整を進めるべき旨の答申が出るなど、市内延伸に向けた動きが進んでいる状況を踏まえ、今後は、PR活動や要望活動だけでなく、モノレール延伸時における集客力の向上を図る取組も促進していくことが肝要である。	
行政評価委員会意見	モノレールを呼ぼう！市民の会は、多摩都市モノレールの市内早期延伸に向けたPR活動等を担う団体であることから、今後も継続して補助することが適当である。 他方、サポート会員に対するフォローアップが不十分であるため、サポート会員と協力してSNSを用いたPR活動を行うことや、更なる会員数の増加に向けて、大型商業施設等集客力のある施設でPR活動を行うなど、活動内容に見直しの余地があるといえる。 また、多摩都市モノレールの市内延伸に向けた動きが進んでいる状況を踏まえ、今後は、さらに効果的な取組となるよう創意工夫の上、計画的に活動していくことを求めたい。	